

理想のカフェテリア

C1240701 小林駿介

共感

この東北公益文科大学のカフェテリアは、食券を買い、交換してもらうシステムである。カフェテリアには多くのテーブルがあり、使える時間が長く様々な用事で使われている。お昼の時は、とても混みあっている。お昼以外の時間は、使用人数が少なく使いやすい空間となっており、デザートやカフェタイムメニュー（図1）なども買うことができる。カフェテリアでは飲み物も買うこともでき、隣には「もっけ」という売店がある。

現在の食券機は、小銭の新500円玉を使うことができないことや、1000円札以外のお札を使うことができない。（図2）定食や日替わりメニューなどの人気メニューが早い段階で売り切れになってしまうことである。係員から料理を受け取ってから、席に座るまでに時間が掛かってしまう。お昼を過ぎて利用するのに、周りに利用している人がいなく使いづらい点や、学食を作ってくれる係員を呼ぶのが申し訳ないという理由から、あまり利用している人が少ない。



図1



図2

課題定義

使うことができる小銭やお札が限られているので、学食のためにお財布の中身を調節しなければいけない。2時限目の講義が終わった頃には人気メニューが売り切れていることが多いので、講義が終わったら誰よりも早く食券を買いに行くまたは、講義がない日に、食べたいものの食券を買わなければならない。お昼ご飯を食べる席が混み合っており、待つことや探すのに時間が掛かってしまう。お昼以外の時に利用がしにくい。

これらのことから、カフェテリアを利用する全ての人が使えないお金の問題、混み合っ
て時間が掛かってしまう問題、係員や周りを気にせずにスイーツ、軽食などを食べたいと
いう問題を改善し、不便なく利用できるカフェテリアにするにはどうするべきか。

プロトタイプのプロトタイプ

現代の支払い機能にも適応し、多くの人々が利用でき、係員の人を気にすることなく利用
できるカフェテリアにするための機能に変えていく必要がある。

- 現代の支払い機能には、電子マネーが様々な場面で使われている。これからお札が新
しい種類に変更されていきます。そのためこの際に、新500円玉や、1000円札
以外のお札、電子マネーを使うことができる食券機に取り換える。
- 現在は、利用する際に隣の席に荷物を置いている人が多い。これを改善するため
には、各テーブルの下に荷物を入れておく籠のようなものを設置しておく。一部のつ
のテーブルを小さくすることにより隣の席に人が座ることがなくなり利用できる人数
を増やせる。
- お昼を過ぎると係員が裏の方に行ってしまう呼び出しベルを鳴らさなければならな
い。これを改善するために、デザート、軽食の自動販売機を設置すべきである。世の
中には、飲み物以外にも、食品や物、料理を買うことのできる自動販売機が存在して
いる。

期待される効果

利用できるお金の範囲が広がることにより、食券を買うことのできる時間を二限目の終
了時刻の近くに設定したとしても混まずに買うことができる点と、カフェテリア内の食事
する席が増えることによりカフェテリアを使用する人数が増える点と気を配ることが減る点
だと考えられる。デザート、軽食を買う方法を自動販売機に変えることによって、時間帯
や人の目、係員に気を配ることなどが改善される。東北公益文科大学は、校外の人でも利用
できるため大学生のことや係員に気を配ることが減ることにより、利用する年齢層が広く
なり人数も増えると予想されます。